

被災地食材食べて復興支援

横浜で16日、参加者を募集



1回目の復興キッチン。岩手産の海産物が並んだ117月、主催者提供

東日本大震災の被災地の食材を使った料理を食べて復興を支援しようと、横浜市を拠点に活動する有志団体が16日、「復興キッチン」を開く。食べるボランティアを募集した。

復興キッチンは7月に続き2回目。初回は岩手県産の海産物が中心で、定員を

上回る約60人が参加した。今回は宮城県気仙沼産の海産物や、地元商店の水産加工品を使う。カツオやタコの刺し身やイカ塩辛を使ったパスタのほか、地元住民から教えてもらったレシビをもとに、サンマのつみれ汁やサンマのハンバーグも用意する。

ゼンリン・横浜市、災害対策地図で協力



防災訓練では、ゼンリンが提供した大型地図に市職員が情報を書き込んだ＝2日、横浜市提供

横浜市と住宅地図大手の「ゼンリン」は、災害時に活用する地図づくりを進める協定を結んだ。病院や備蓄倉庫などの位置を盛り込んだ独自の対策地図を共同で作る。ゼンリンが自治体と災害対応の協定を結ぶの

医療用や物資調達用…市全体を1枚で

は初めてという。対策地図は、市全体を1枚でカバーする大型のA0判。病院や負傷者搬送路を記した医療用や、備蓄倉庫や物流拠点の位置が分かる物資調達用など、市災害対策本部の班ごとに必要な情報を盛り込んだ地図を作る。

ゼンリンは元になる大型地図や、各区の住宅地図の冊子を無償で提供し、地図づくりも協力する。自治体向けの地図づくりから始め、必要な防災情報を選んで表示できるデジタル地図など市民向けサービスの開発も検討していくという。

ゼンリンにとっても、災害対策地図のノウハウを蓄積できるメリットがある。高山善司社長は「他の自治体とも協力関係を構築していきたい」と話している。

主催は、被災地支援を続ける有志でつくる「かながわ311ネットワーク」。食べることを通じて被災地の漁業者や食品加工会社との交流を深めようと企画し

た。当日は気仙沼の現況報告や、地元で食堂を開く店主との交流会も予定している。横浜市中央区相生町3丁目

「かんがわ311ネットワーク」のホームページ(<http://kanagawa311.net/>)